

## 黙示録タペストリー

### 特別注文による作品

タペストリーは、今日でも織物作品としての例外的な規模を誇っています。長さは実に約100メートルにおよび、高さは4.5メートルです。このタペストリーは、1375年にシャルル5世の兄弟であるアンジュー公ルイ I 世の注文を受けて製作され、1382年に完成したと考えられています。時代とともに一部劣化も見られますが、主要部分は保存されています。

### 再解釈

タペストリーは、1世紀当時のテキストをもとにした聖ヨハネの黙示録を描いていますが、その中には、製作時の時代背景、1337年から1453年までフランスとイギリスの間で長期に及んだ百年戦争の影響が見られます。タペストリーには、戦争被害や略奪、ペスト、飢饉などが写実的に描かれています。

### 高価な作品製作

タペストリーの製作には7年が費やされ、作品の規模から見ると比較的短期間での仕上がりになっています。純毛製の作品は、6つのパーツで構成されています。まず一人の偉大な人物から始まり、次に2段構成で7つのシーンが展開されます。タペストリーを織る際に原画となる下絵は、宮廷の公式画家ジャン・ド・ブリュージュによるものです。画家は、おそらく黙示録の写本装飾術からインスピレーションを受けたと考えられ、無地または花模様を背景にして人物が大きく配置され、非常に判読しやすい場面構成になっています。

## 用語集

アンジュー様式のヴォールト：大きく張り出したゴシック様式のヴォールト(交差リブ)。  
落とし格子：垂直方向に開閉する柵で、要塞の門や町の入り口に用いられた。  
新石器時代：紀元前4000～2500年。先史時代中で最も新しい時代。  
水平化：表面から凹凸を取り去り、水平に整えること。  
摂政：ブランシュ・ド・カステューは、1226～1234年の間、後のルイ9世となる息子が成年に達するまで政治を司った。  
投擲口：ヴォールトにあげられた穴で、ここから敵めがけて物や弾丸を放った。  
物見やぐら：円錐形の屋根。  
矢狭間・銃眼：射撃用の開口部で、矢を射するための縦長のものと、大砲用の円形のものがある。

## 役に立つ情報

見学に必要な時間: 1 時間  
自由見学、解説付き見学、テーマ別見学  
フランス語・英語・ドイツ語・イタリア語・スペイン語による音声ガイドダンス。子供用バージョンあり。  
身体の不自由な方向けの見学あり。



国立モニュメントセンターは、フランスのモニュメントに関するガイドシリーズを翻訳版で出版しています。文化・歴史遺産バージョンは書店ブティックにて販売しています。

Centre des monuments nationaux  
Château d'Angers  
Promenade du Bout-du-Monde  
49100 Angers  
tél. 02 41 86 48 77  
fax 02 41 87 17 50  
chateau-angers@monuments-nationaux.fr

[www.monuments-nationaux.fr](http://www.monuments-nationaux.fr)

# アンジェ城

## 王権の要塞

### 城塞と豪華な居所

この土地はメーヌ川を見下ろす岩場の岬にあり、新石器時代\*から、人間が定着しています。9世紀になると、アンジュー伯によって、ノルマン人の脅威に備えるために監視拠点が設けられました。3世紀後には、プランタジネット朝のアンジュー家が勢力を握り、ピレネー地方からスコットランドに至るまで支配しました。13世紀には、ブランシュ・ド・カステュー\*が摂政政治を行い、王の軍隊を集結させるために城塞を築きます。続く14～15世紀に、アンジュー公ルイ I 世、ルイ II 世、ルネ王といった、芸術に造詣の深い、教養ある君主らによって、華やかな宮廷生活で城で繰り広げられました。また、君主たちの度重なるナポリ滞在が、生活様式や建築スタイルに影響を与えています。

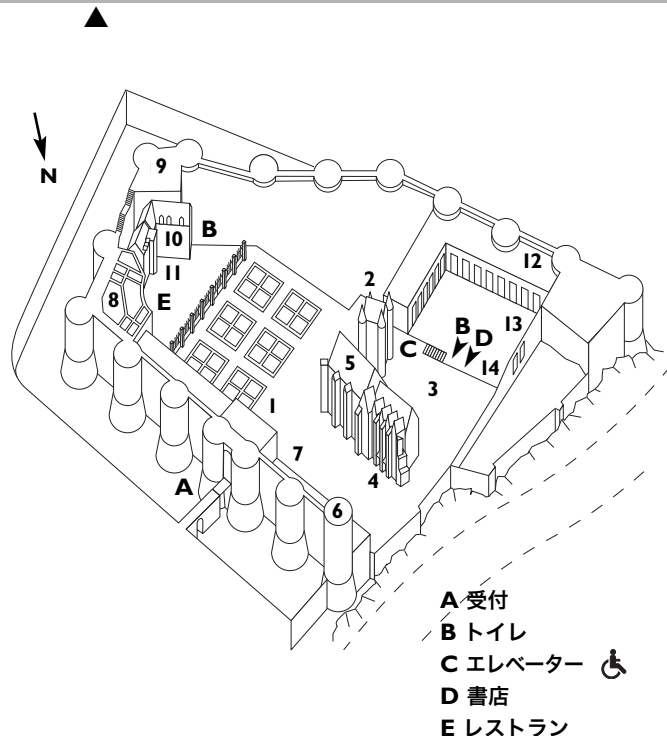
### 軍事要塞と牢獄



16世紀の版画

宗教戦争のさなかにあった16世紀末に、アンリ III世(1574～1589)\*\*の命を受けた城塞司令官ドナデュー・ド・ピュイシャリックによって、塔と城壁の屋根の高さがそろえられました。これは、砲術の進化に対応するための措置でした。後に、城塞は安全保障のためのシンプルな城壁のみを残し、牢獄として利用されました。

\* 裏面に解説あり  
\*\* 治世期間を示す



## 錯綜する二つの建築

城の外観は、重厚な塔の数々と1 km近く続く城壁によって、どっしりとした印象を与えています。この王権力の牙城は、暗色の片岩(もしくはスレート)と、ブロンド色の石灰岩が交互に用いられた17の塔を擁しています。高さ約30メートルのこれらの塔には、3~4段階の高さの矢狭間\*が備わっています。矢狭間の一部は、16世紀末に銃眼\*に改造されています。城の出入り口は、いずれも二重の落とし格子\*で防壁され、上部には投擲口\*が設けられています。

- 1 城塞の内側にある**オリエンテーション**地図付近からは、約2万5千m<sup>2</sup>の敷地内に広がる、エレガントなたたずまいの建物と庭園を一望することができます。

## 領主の住まい

中庭を中心にして配置された建物は、14・15世紀当時、城塞の他のスペースから区切られた、プライベートスペースおよび行政スペースとなっていました。

- 2 **小城塞** は15世紀のもので、角部の小塔にある物見やぐら\*が独特の外観を構成しています。この小城塞は、領主の住まいへの入り口で、城の半公共スペースから区切る働きをしていました。
- 3 **領主の中庭** は、城塞のアングルと、9~15世紀に歴代のアンジュー公および侯爵が手がけた様々な建築物によって区切られています。
- 4 **王の館** は、14世紀にルイII世によって再建されたもので、1450年ごろにはルネ王によって回廊を加えられました。現在、2009年1月に起きた火災によって損傷した上部の修復工事が行われています。
- 5 **礼拝堂**は、1410年ごろにルイII世の妻のヨランド・ドラゴンが手がけました。单身廊で、その広さと、アンジュー様式のヴォールト\*を特徴としています。

## 城壁

- 6 **風車塔** には、かつて風車が備わっていました。地上40メートルの高さからは、町や城、メヌ川への展望が開けています。
- 7 **巡回路** は城壁上に位置し、16世紀末に、塔の水平化\*の後に整備されました。塔の高さは10数メートル上げられ、スレートぶきの屋根の物見やぐら\*が備えられました。城壁の内側にあった土塁を利用して、砲撃台が整備されました。
- 8 **植樹**: スレートの添え木を用いた伝統的な方法でブドウの木が栽培されています。空中庭園では、中世になじみの深い植物—薬草、アロマハーブ、黙示録タペストリーに織り込まれた花々—が見られます。

- 9 **ポルト・デ・シャン** は、もともとは城の正面玄関で、二つの太い塔と、落とし格子\*と投擲口\*を用いた閉鎖システムが備わっています。

- 10 **模型**: 門の内側にあるホールには、4つのミニチュア模型が設置され、城と領地の変遷をたどることができます。

ヴォールト部に吊り下げ展示された作品は、サルキスによるコンテンポラリー作品で、5分の1縮尺でドアや窓も再現した各部屋の模型です。

- 11 **総督の住まい** は18世紀に整備されましたが、スレート製の階段小塔は15世紀のもので。

## 12 黙示録ギャラリー

アングルを構成するこの建物は、昔の建物跡に位置し、貴重な黙示録タペストリー一式を展示・保管するために、1954年に建てられました。1996年には回廊の改装が行われました。

タペストリーについては裏面をご覧ください。

- 13 **伯爵宮** は、9~12世紀に歴代のアンジュー伯によって建築されました。現在残されているのは、レセプション大広間の壁のみです。

- 14 **考古学的遺跡** では、この地の歴史を遠くさかのぼることができます。最も古い遺跡は、新石器時代\*の巨大墓所ケルンです。その直径は15メートルで、廊下と5つの部屋から構成されています。

奥の方には、ローマ時代の二つの部屋が残されています。左側の部屋には、暖炉と排水溝が見られます。右側の部屋の壁の厚みには、上階の部屋の暖を取るためのパイプが縦に埋め込まれています。